

## 通訳案内士試験 中国語で学ぶ日本⑩年中行事

### 正月・春

- 1 親不孝者
- 2 お年玉付き年賀状
- 3 これらのおせち料理は冷たい料理が多いが日持ちがする（作り置きできる/保存がきく）料理だ。
- 4 例えば黒豆は、家族の健康を表し、数の子は子孫繁栄を表すのだ。
- 5 子どもたちは福笑いやこま回しなど伝統的な遊びをする。女の子なら羽根つきをしてあそんだりもする。
- 6 ババ抜きやブリッジなどのトランプゲームをする
- 7 元日か二日の夜にはよく初夢で占う。
- 8 一富士二鷹三茄子の夢を見る/夢に富士山、鷹、なすがでてくる。
- 9 八仙过海 中国版七福神
- 10 ちょうど季節の変わり目の二月三日、すなわち二十四節気の一つである立春の前日は、厄払いをして福を招く日である。
- 11 草木が芽吹き、根を張る
- 12 国際婦人デー/国際女性デー
- 13 自分の体のよくない(具合の悪い)個所を人形に移してから川に流し、娘の無病息災(健康と無事)を祈った。
- 14 ひな壇の最上段にはお内裏さまとお雛さまが座っていて、その下には三人官女、五人ばやし、右大臣・左大臣などが座っている。
- 15 草の青さが増し(青々とした新緑となり)、様々な花が咲き誇る(咲き乱れる)三月末は桜が満開になる時期でもある。
- 16 桜が咲く時期が来るたびに、あらゆる日本人の心はうきうき(わくわく)しだし、桜の開花を待ちのぞむ(首を長くして心待ちにする)。
- 17 ハイキング、あるいは桜の花が舞う場所でピクニックを楽しむという意味もある
- 18 歌ったり、踊ったりして、皆喜びに溢れている。
- 19 好事多磨 楽しいときにかぎって面倒なことが付きものだ。
- 20 桜のあるところは人でごった返して大変だが、いい場所をとりたいというのが一番の悩みの種だ。
- 21 日本は四月が年度初めだ。だから学校は四月一日に授業が始まり、会社でも新入社員はこの日が初出勤だ。
- 22 卒業見込み(新卒)の学生たちは、企業訪問/会社まわりをし、数次の筆記試験や面接からなる就職(採用)試験を受けるのだ。
- 23 会社に失望し、辞めたくなるいわゆる「五月病」になる社員も少なくない。

24 昭和の日、憲法記念日、みどりの日、子どもの日などの祝日

25 風にはためく（たなびく）鯉のぼりがいたるところにみられるが、それは元々中国の「鯉の滝のぼり（登竜門）」の故事に由来する。

26 人々は鯉のぼりをあげて、息子たちのすくすく健やかな成長と将来の出世（成功）を願うのだ。

## 夏

- ① 梅雨前線が徐々に北上する六月は長雨が降り続き、どこに行ってもじめじめしている。
- ② 蛍狩りに行く。
- ③ 猛暑の夏になると蝉の声が響く。窓の外にはすだれをかけ風鈴を吊るし、室内には金魚鉢をおく。
- ④ 子どもたちは日陰で水鉄砲をして遊ぶ。日が照りつける庭に打ち水をすると、庭の草木も人間と同じようにうるおい（しっとりして）、暑苦しい中を何とかしのげる。（元気でいられる）
- ⑤ 夏のとても暑い土用の丑の日には、夏バテしないようにウナギのかば焼きを食べて精（スタミナ）をつける。
- ⑥ 織姫と彦星が一年に一度天の川（のかささぎの橋）で出会う日
- ⑦ 人々は短冊に自分の願いを書き、それを笹に結びつけて立てかけ、星に祈るのだ。
- ⑧ 四面八方 あちこちから
- ⑨ 「なにかあれば仲間におすそ分けする（と分かち合う）」という考えから、日本人は時期を選んでお礼（感謝の印）として贈り物をする。
- ⑩ 特に神様にお供えしたそれらの縁起がよい食べ物を分け合うことで、神仏の加護を受けることができる。
- ⑪ 五彩缤纷 色とりどりの
- ⑫ 花火大会は日本の夏の風物詩だ。
- ⑬ 首を長くして待つ特別な日
- ⑭ 大きなホテルはどこも満室となり、大変だ/うれしい悲鳴を挙げる
- ⑮ 销声匿迹 廃れつつある（影を潜めている）
- ⑯ もともとは先祖供養して冥福を祈る日だったが、今では一家が集まり村中楽しむ日の一つでもある。
- ⑰ 迎え火と送り火をともし、先祖を供養する
- ⑱ 中国北部の田植え踊りに似ている。
- ⑲ 太鼓のリズムに合わせて歌い手が地元の唄（音頭）を歌いだす。浴衣を着た老若男女が軽やかに踊る。

## 秋・冬

- ① 東洋人は昔から月に深い思いを寄せてきた（しみじみとした情緒を感じてきた）。旧暦八月十五日に明月の美しさをたたえる（愛でる）のは日本でもよくある（一般的な）ことだ。
- ② この日はみな神様に団子、サトイモ、酒、そしてススキなどの秋の草花を供え、家族とともに十五夜（中秋の名月）を愛でる。
- ③ 人々はこの日に神々にたまわった秋の収穫の成果に感謝する。
- ④ 梨狩りやブドウ狩り、クリひろい
- ⑤ 草木も枯れ落ちるこの時期、コオロギ、スズムシなど虫の音にも心を動かされる（心にしみる）ものがある。
- ⑥ 師走に入ると、街角には巨大なクリスマスツリーと趣向を凝らした/意匠にこだわったイルミネーションが現れ、クリスマスイブになるまでいたるところで楽しいクリスマスソングが流れる。
- ⑦ 东奔西走　あちこちバタバタする
- ⑧ その年に起こった面白くないことを忘れるため、仲間たちとともに思う存分酒を飲んで語り合う宴会
- ⑨ その年受けたご愛顧や世話になったことに対する感謝の念を示すため、顧客（得意先）や上司、先生などにお歳暮を贈る習慣
- ⑩ 日本の大晦日は旧暦十二月三十日ではない。
- ⑪ 辞旧迎新　一年が終わり新しい年を迎える「行く年くる年」
- ⑫ 百八回鐘をつくのは、欲望、執着、嫉妬など、世の中の百八の煩惱を消し去るという意味がある。
- ⑬ 家族そろって年越しそばやごちそうを食べ、団らんする。
- ⑭ 天伦之乐　一家団らんの楽しみ

## 正月の食べ物—雑煮

- ① 昔の人々は大晦日の夜、神仏にもちを供え、元旦の朝はやく家族そろってもち、肉、野菜などをいっしょに煮た雑煮を食べたという。
- ② 所変われば品変わる
- ③ 東日本ではほとんどの人がこんがり（キツネ色に）焼けた角もち（切り餅）で雑煮をつくる。雑煮には小松菜などの青菜類と鶏肉なども入れ、汁は普通醤油味か塩味の澄まし汁だ。
- ④ 雑煮にはしばしば紅白のかまぼこを入れ、めでたさを表す。
- ⑤ 皮をむいた里芋（丸ごと、あるいは輪切り）
- ⑥ 一家が集まって我が家ならではの雑煮を食べ、新年を迎える。

## 桜と詩歌と日本人

- ① 盆と正月が一緒に来たような
- ② 人々は花見をするとき、この花の精が南から北に向かって各地に桜の花を咲きちらして/まき散らしていると感じたのだろう。
- ③ 故郷に住んでいる昔の友人の心境の変化は知ることは難しい。ただ梅の花だけは昔と同じように良いにおいを漂わせている。
- ④ 世の中にそもそも桜というものがなかったら、春の心はかえって穏やかだったろう。
- ⑤ 桜ははかないからこそいいのだ。そもそもこの世にずっと続くことなどないのだから。
- ⑥ 前者は桜のはかなさを嘆き、後者は桜の美しさを前向きな方向で描いた短歌である。
- ⑦ まるではかなく/ぱっと咲いてぱっと散る桜の美しさを巡ってディベート/論争しているかのようだ。
- ⑧ 「日本の西施」の異名を持つ/と称される絶世の美女、小野小町も散る桜を日々色あせていく自分の美貌にたとえた。
- ⑨ あっという間に桜は色あせた。歳月はむなしく過ぎ、老ける一方だ。どんなに心の底からかなしいことか/これほど心の底からかなしいことはない。
- ⑩ 辞世の歌/臨終の前に詠んだ歌
- ⑪ この世を去った
- ⑫ 「ぱっと咲いてぱっと散る桜」を、死を前にしてもたじろかない気概として見た。
- ⑬ 辱めを受けた主君の仇討ちをしてから、堂々と/泰然自若に裁きを受け、切腹した十七世紀の忠臣
- ⑭ 十九世紀に品種改良した「ソメイヨシノ」
- ⑮ 民衆を洗脳し、天皇に忠誠を尽くそうと/忠良なる臣民として美しく散る桜のように死ぬことは誉れであるという考えを吹き込んだ/植え付けたのだ。
- ⑯ 頭に「尽忠報国/精忠報国」のはちまきを締めた神風特攻隊員
- ⑰ 軍部の命令と要求を受け、地元の子どもたちが植えた桜の木を切り倒して供出しなければならなかった。
- ⑱ 当時の町長は国策を無視し、「非国民/売国奴」とののしられても/と汚名を着せられても、投獄を覚悟の上で土手の両岸の桜の花を守ろうとした。
- ⑲ 人々の桜に対する熱い思い
- ⑳ 大空襲によって行き場をなくした/逃げまどう人々は焼け残った桜の下で暮らすことを余儀なくされた。
- 21 桜を見れば、昔のことを思い出す
- 22 日本人は様々な思いをもって今年の桜を愛で、来年の桜の時期が来るのを心待ちにするのだ。

## 中国語で学ぶ日本⑩年中行事 氏名

1 親不孝者/2 お年玉付き年賀状/3 おせち料理	
3 日持ちする食べ物/4 数の子/5 コマ回し	
5 羽根つき/6 ババ抜き/ブリッジ/7 夢占い	
8 富士山の夢を見る/ 9 中国版の七（八）福神（成語）	
10 季節の変わり目/厄払い/11 根を張る	
12 国際女性デー/13 川に流す/14 ひな壇の最上段	
14 お内裏様とお雛様/15 様々な花が咲き誇る（成語） /	
16 ハイキング/ピクニック/18 顔に喜びあふれる	
16 心がうきうきする/ 19 楽しい時に限って面倒なことがある（成語）	
20 頭を悩ます（成語） /21 授業が始まる	
21 新入社員/22 卒業見込み（新卒）の学生	
22 会社訪問/筆記試験と面接からなる就職試験	
23 五月病（20字前後の中国語で説明）	
24 憲法記念日/みどりの日/こどもの日/祝日	
25 風にはためく鯉のぼりが至るところにみられる	
25 それは元々「鯉の滝登り」の故事に由来する。	
26 すくすく健やかな成長/出世・成功（成語）	
1 梅雨前線/じめじめした/2 蛍狩り/3 猛暑	
3 セミ/すだれ/室内に金魚鉢を置く。	

4 日が照りつける庭に打ち水をする。	
4 しっとりする/5 土用の丑の日/	
5 人々は夏バテしないようにウナギのかば焼きを食べスタミナをつける。	
6 織姫と彦星/天の川/7 短冊/それを笹に結ぶ。	
9 お礼に贈り物する/10 神仏の加護を受ける	
11 色とりどり（成語）12 花火大会は夏の風物詩だ	
13 首を長くして待つ/15 廃れつつある（各成語）	
19 歌い手が地元の音頭を歌いだす/軽やかに踊る	
1 東洋人は昔から月に深い思いを寄せてきた。	
1 名月の美しさをたたえるのは日本でもよくあることだ。	
2 団子/ススキ/十五夜を愛でる	
3 神々に賜った秋の収穫の成果	
4 梨狩り/ブドウ狩り/栗拾い（動詞をつけて）	
5 コオロギ/鈴虫/6 師走/クリスマスツリー	
6 意匠を凝らした（成語）/イルミネーション	
6 クリスマスイブ/ 7 あちこちバタバタする（成語）	
8 忘年会（40 字前後の中国語で説明）	
9 お歳暮（40 字前後の中国語で説明）	
10 旧暦の大晦日/12 執着/嫉妬/	

13 家族で食べるごちそう/14 一家団欒の楽しみ	
2 所変われば品変わる（各成語）/3 東日本	
3 こんがりきつね色に焼いた切り餅/小松菜/すまし汁	
4 紅白の蒲鉾でめでたさを表す	
5 皮をむいたサトイモ/輪切りにする	
68 我が家ならではの雑煮	
1 盆と正月が一緒に来たよう（成語）/4 心が穏やかだ	
5 桜ははかない/6 前向きな方向で	
7 桜のはかなさを巡ってディベートする	
9 あっという間に/11 この世を去る/	
12 パツと咲いてパツと散る桜/12 死を前にしてもたじろかない	
13 泰然自若として裁きを受け、切腹する	
15 桜のように死ぬのは誉れだという考えを吹き込む	
17 桜の木を切る/18 町長は国策を無視した	
18 非国民の汚名を着させられる/投獄を覚悟の上で	
20 行き場を失う（成語）/桜の下で過ごすのを余儀なくされる	
22 その年⇔前年	